

音が「意味」するものとは 1

『共感力』が日本の輸出商品となる』

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoshi

実

私は音声から「脳の状態を解析して、感情や精神状態を分析する」技術を作りました。一般的には「ココロスキャン」というDSのゲームやiPhoneアプリにも使われた技術です。

現在、この技術は医療分野にまで進んでおります。日常的な精神状態をケータイなどで自然な状態で分析し、医師へ一瞬で転送できるシステムです。

この技術を医療分野で活用しようと思っただけですが、「ココロスキャン」をすぐに購入したという耳の不自由な学生さんから「相手の感情が色で見えるだけでも世界が変わった」と言われたことでした。顔の表情や文字情報では相手の気持ちを正確にわからないのだと気がつき、人々を笑顔にする技術を目指そうと決心したのです。

そして、飯島ツトム氏（世界的な企業のビジネスデザイナーを手がけている方）が私に告げた言葉がとても印象的でした。それは、日本語で話すと世界中の人々が「なんて美しい韻律」と賞賛する、ということでした。氏の発話

の美しさもあるでしょうが、新しい発見でした。また、世界標準語とは、どんな国の教育を受けていても最低限理解できる言語という意味で、それ自体が優れているという証明ではないことに気づかされました。

確かに私自身の研究の最初の作業で愕然としたことがあります。それは、感情表現の語彙の差でした。広辞苑とオックスフォード英語辞典において日本語の感情表現に対して、英語の感情表現が極端に少なかったのです。これは「Emofit（第三者機関）」に再度検証してもらっていますが、私自身が作業の途中で衝撃を受けました。当然、英語のもつ論理性は抜群のものであることは言うまでもありません。しかしながら、日本語が持つ協調性、共感力、受動性により「家内に逃げられた」という表現ができることも特筆すべき要素です。これは多くの国では「妻が逃げた」となる表現なのです。

また、日本全国の大学の傾向である「外国人留学生しかない大学院」においても、あの世界で一番母国語への誇

り高いフランス人が日本人より美しい日本語を使い、とても謙虚な態度をとっている姿に感動します。

日本語をどうにか使いながら謙虚さの微塵もないダメな人間は私ぐらいだと言えます。彼ら留学生を見てとても恥じ入る次第です。

私は「家内に逃げられた」と言える日本語の言語特性に、民族や宗教、イデオロギーや敵味方の対立を超え共感力のヒントが隠されていると直感できるので

Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士（工学）。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist（客員科学者）。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST（Sensibility Technology）感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

